

水俣病から原爆被害へ 私のかかわりの軌跡と二つの病気からみえてくるもの



ピース・ウィング長崎

NAGASAKI FOUNDATION

調 漸(シラベ ススム)

(公財) 平和推進協会 理事長

核兵器廃絶長崎連絡協議会(PCU-NC) 会長

国境を越えた地域医療支援機構 顧問

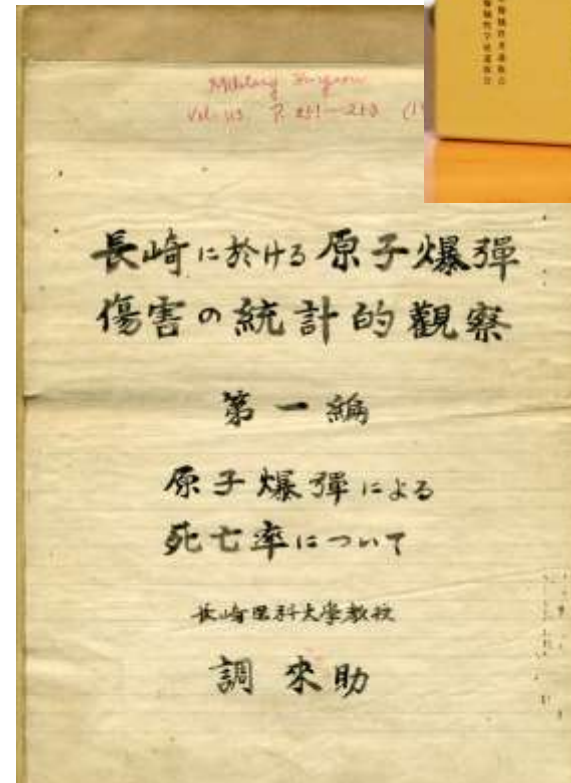
国立大学法人長崎大学 特命教授

本日のお話

- 1) 自分史 (なぜ私が平和と核兵器廃絶を考えるようになったか)
- 2) 長崎の原爆被害
- 3) 核兵器廃絶研究センター設立と活動紹介
- 4) 水俣病と原爆被害

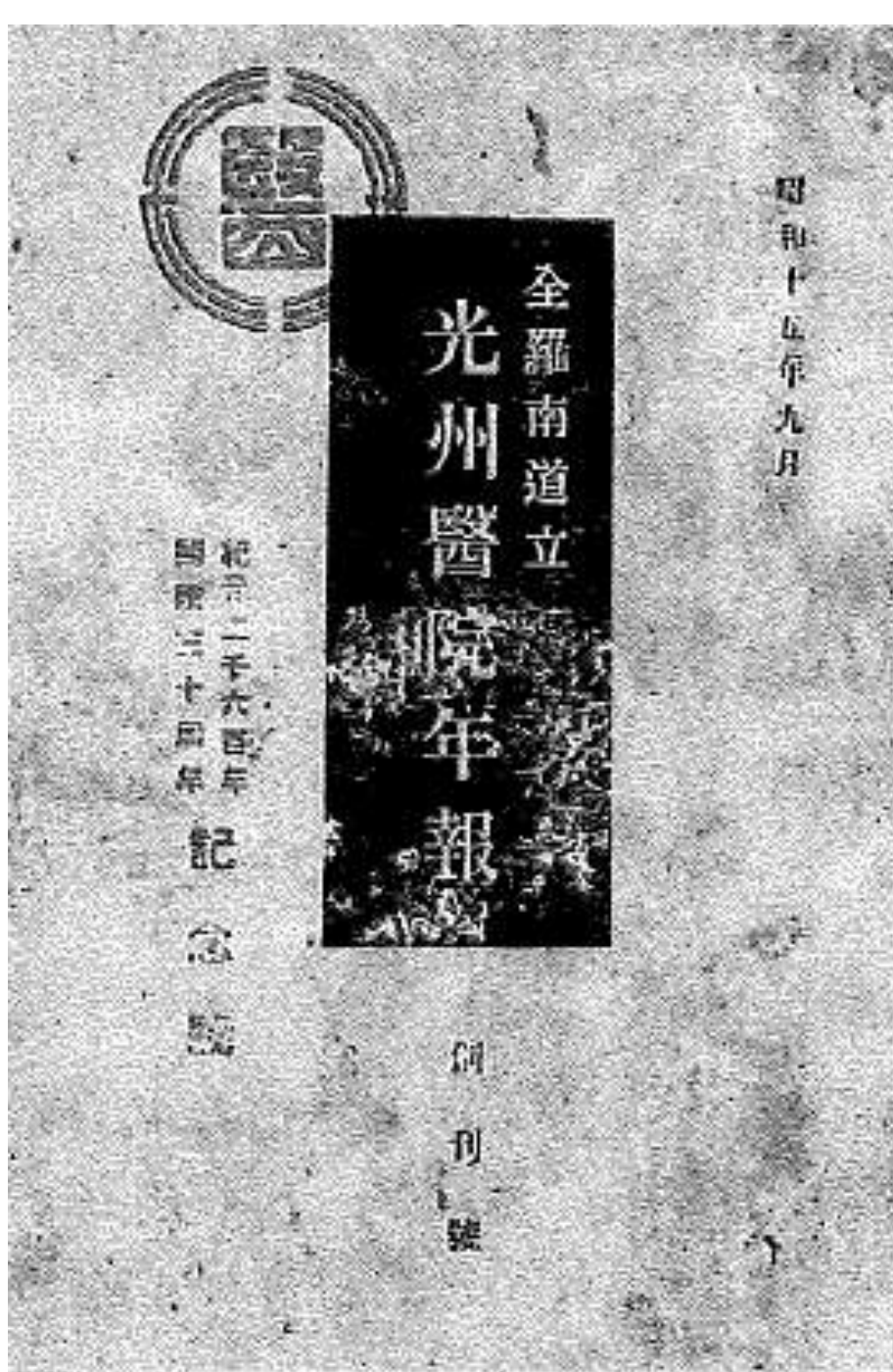
しらべ らいすけ
祖父 調 来助

旧制長崎医科大学教授として被爆者の救援・被爆医療





外科部の調院長送別記念写真（昭和17.3.18）



世界唯一の被爆医科大学

医学部は木造教室で受講中の医学生と教職員の多くは、叔父も含め爆死



病院は鉄筋の建屋が多く、祖父は爆死を免れた

核実験は数千回に上るが先進国
による最後の核実験がこの年
フランスによって行われた。抗議
として仏国新聞のル・モンド誌に
長崎大学医学部教官会議として一
面広告を掲載した。

“La possession de l'arme
nucleaire, peut-etre vraiment
apporter la paix?”

(核兵器は本当に平和をもたらす
のでしょうか?)

山端庸介氏作「傷を負った弟を背
負って彷徨う兄」

長崎大学医学部教官会議

1996年1月27日掲載

LA MONDRIAN / YAMAGUCHI 28 - L'UNION / L'UNION 1996



**La possession de l'arme nucléaire
peut-elle vraiment apporter la paix?**

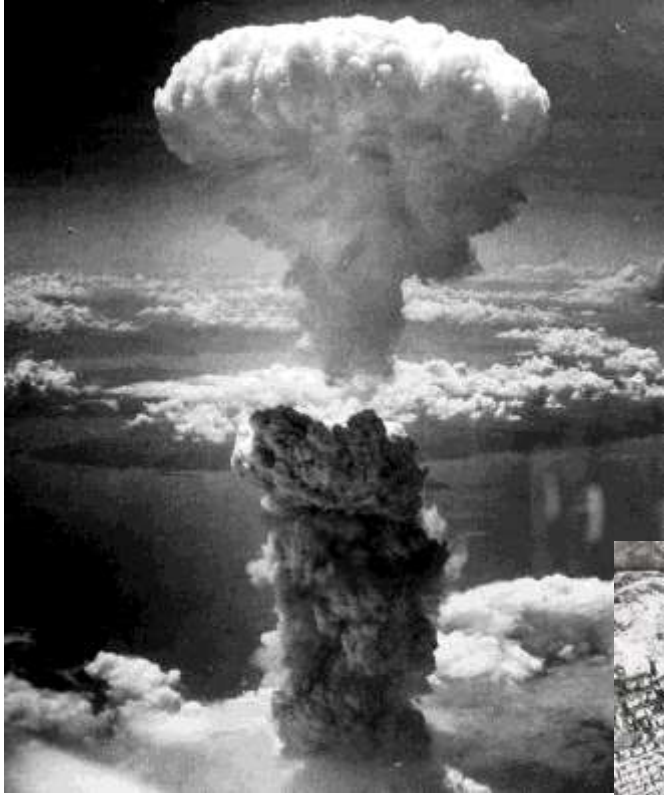
L'arme nucléaire est une arme contre l'humanité qui peut d'un seul coup
détruire une ville entière, et provoquer la mort de centaines de milliers de gens.
Nous, médecins et chercheurs, qui avons hérité de
l'expérience de la bombe atomique de Nagasaki, il y a 50 ans,
nourrissons une forte suspicion à l'égard de l'arme de destruction massive appelée arme nucléaire.

Une seule bombe lancée le 9 août 1945 a détruit instantanément Nagasaki.
Presque toute sa population qui se trouvait dans un rayon d'un kilomètre du
centre de l'explosion sont morts sur le coup, et tous les survivants ont dû souffrir sans relâche de l'effet.
Les rescapés qui ont pu échapper à l'explosion elle-même ont passé leur vie à souffrir de
graves séquelles de l'explosion, dans ses importantes radiations résiduelles.
Nous savons, qui se trouvent à 500 m du centre de l'explosion, a également été détruite,
et presque tous les enseignants, étudiants, employés et habitants sont morts.
Les quelques résidents rescapés, secourus par les soins à donner à leurs collègues et aux habitants de la ville,
ont tous des séquelles des symptômes et des effets directs des radiations.
Y figurent beaucoup de symptômes spécifiques aux radiations, retrouvés dans les désastres dus aux armes ordinaires.
Les études pour l'identification des séquelles des radiations se poursuivent encore aujourd'hui.
Nous, médecins, chercheurs et étudiants qui avons hérité de l'expérience malheureuse de l'arme nucléaire,
apportons une forte défiance à l'égard de l'arme de destruction massive appelée nucléaire,
et demandons à ce qu'il n'y ait plus jamais d'essais nucléaires en vue du développement de nouvelles armes de ce type.

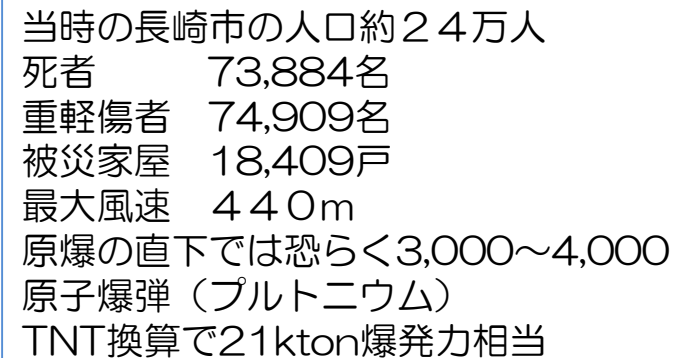
Professeurs et Etudiants de la Faculté de Médecine de l'Université de Nagasaki
le mardi 27 janvier 1996, Nagasaki, Japon (1996) <http://www.nagasaki-u.ac.jp>
Nagasaki, août 1995. Photo / Youssef Vassilakis

長崎へ原爆投下

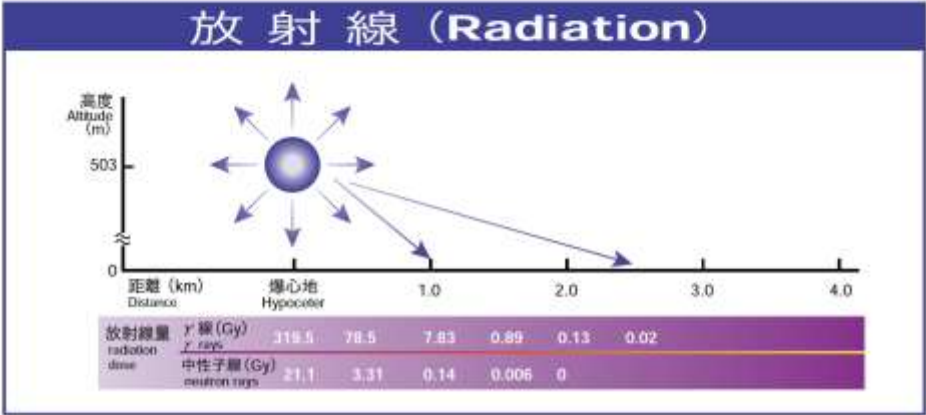
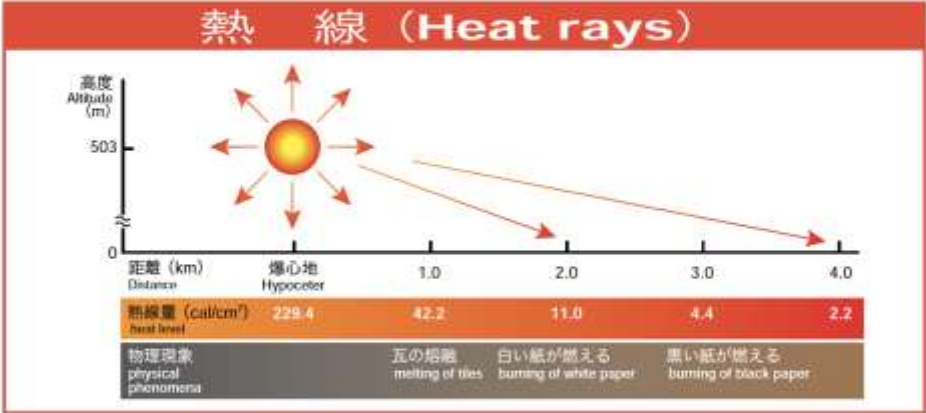
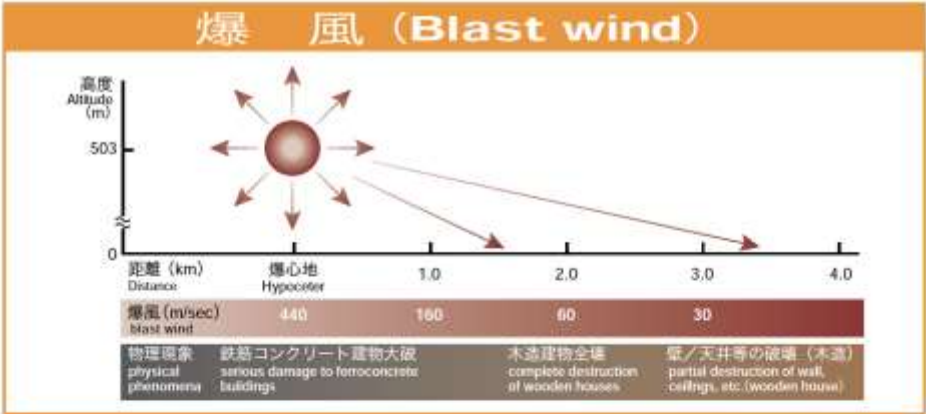
昭和20年8月9日11時2分



Physical Damages Caused by the Nagasaki Atomic Bombing



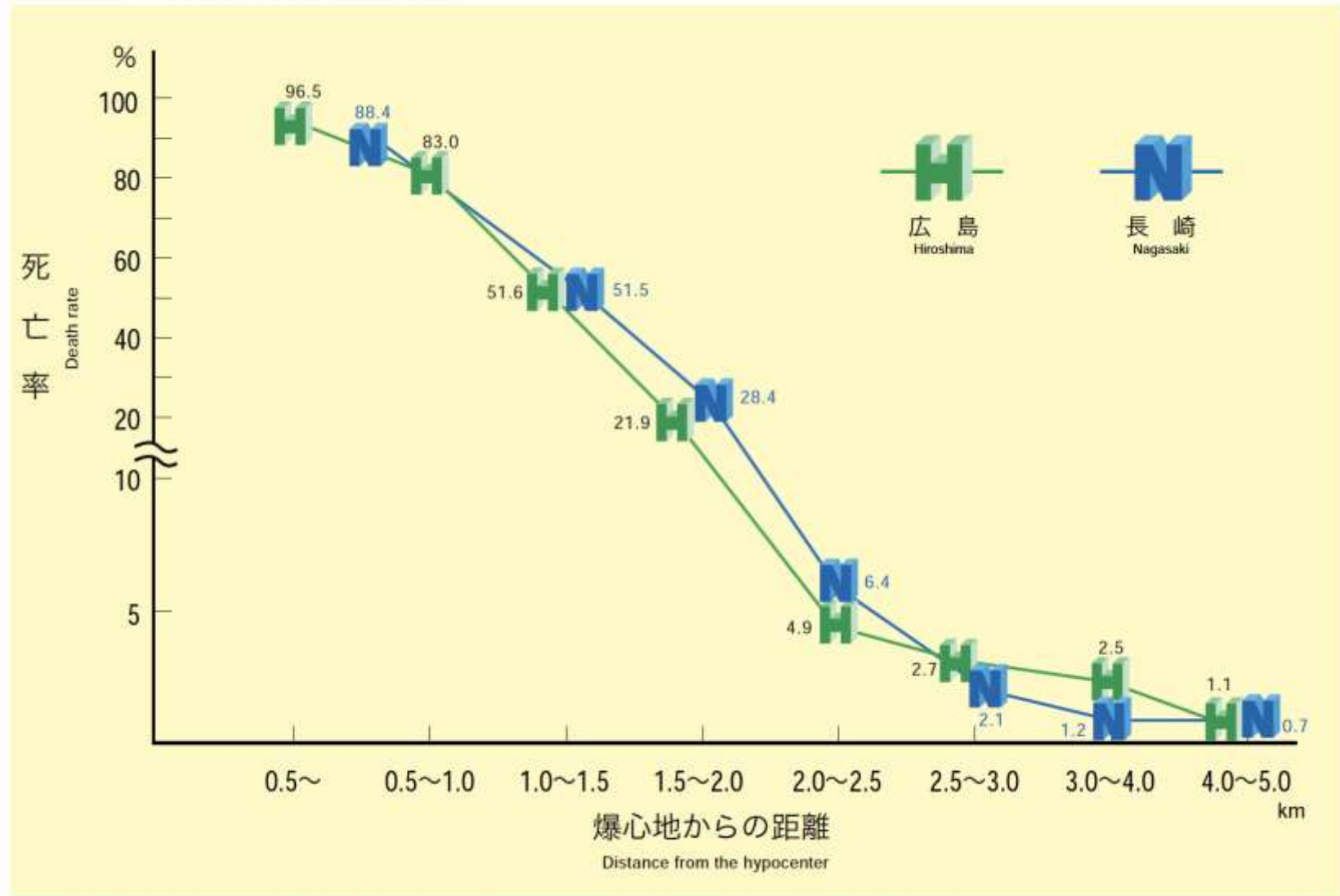
原爆の破壊要素



米国は広島にウラン爆弾、長崎にプルトニウム爆弾を投下し、破壊と健康被害の検証を徹底的に行った。

原爆による死亡率

Rate of deaths due to the atomic bomb



(Oughterson AW and Warren S: Medical Effects of the atomic bomb in Japan. McGraw-Hill, New York, 1956より改変)

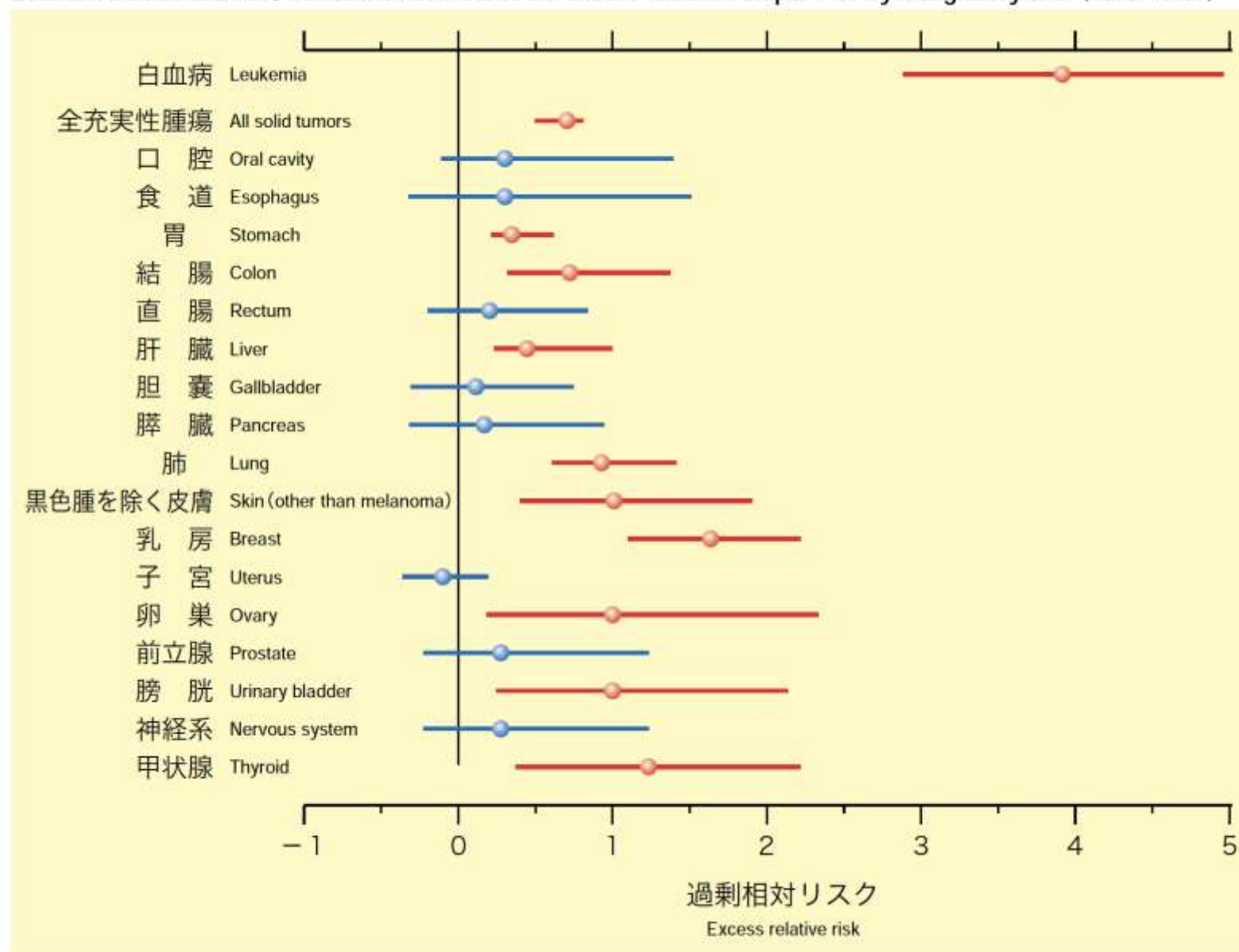
長崎医科大学の生き残りの医師、医学生ら
による被爆直後の聞き取り調査による

急性期症状の頻度
Frequency of acute symptoms

症 状 Symptoms	死亡例 (%) Deaths (n=333)	生存例 (%) Survivors (n=5520)
発 熱 Fever	80.0	21.5
下 痢 Diarrhea	67.6	33.3
嘔 吐 Vomiting	51.6	15.0
出 血 Purpura	48.6	14.7
口 内 炎 Stomatitis	43.6	17.8
頭 痛 Headache	39.0	20.4
脱 毛 Epilation	29.1	11.8
腹 痛 Abdominal pain	26.1	10.8
眩 暈 Dizziness	21.3	10.5
意識障害 Disturbance of consciousness	21.0	6.6

(調ら、1945年10月～12月調査より改変)

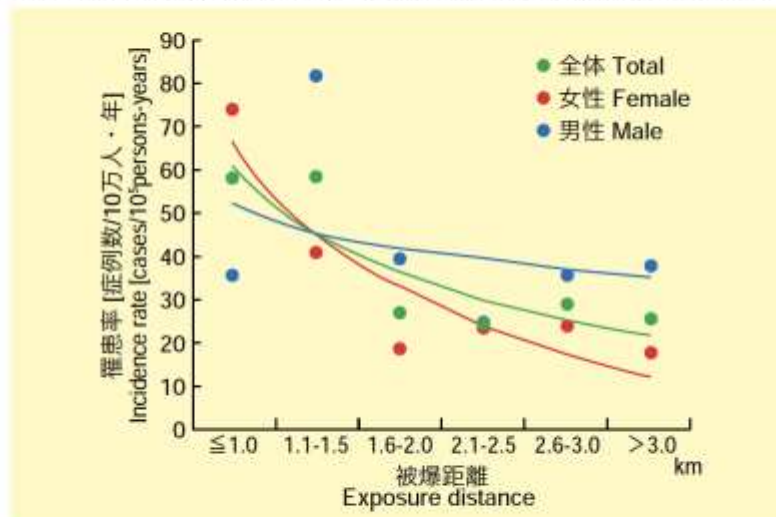
悪性腫瘍の部位別の1 Sv 当たりの過剰相対リスクの推定値および95%信頼区間 (1958~1987年)
 Estimated value and 95% confidence interval of the excess relative risk per 1 Sv by malignancy site (1958~1987)



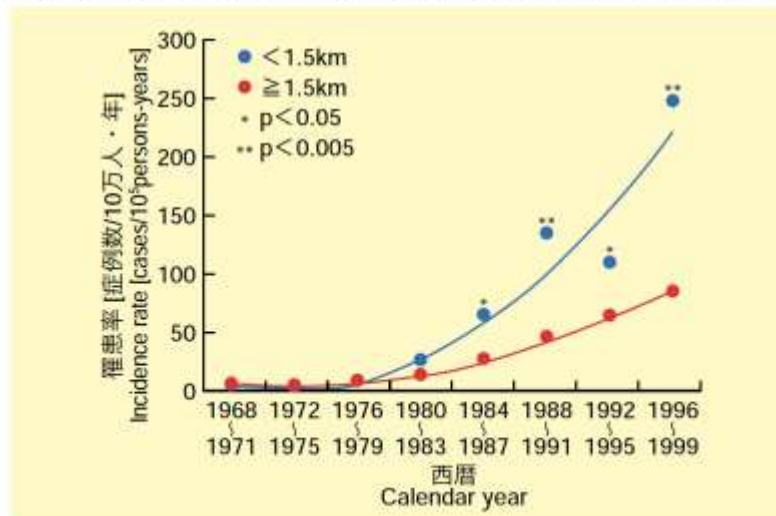
多重がん

Multiple primary cancers

A：長崎原爆被爆者の被爆距離による多重がん罹患率（1968～1999）
Incidence rate of multiple primary cancers in Nagasaki A-bomb survivors by exposure distance (1968～1999)

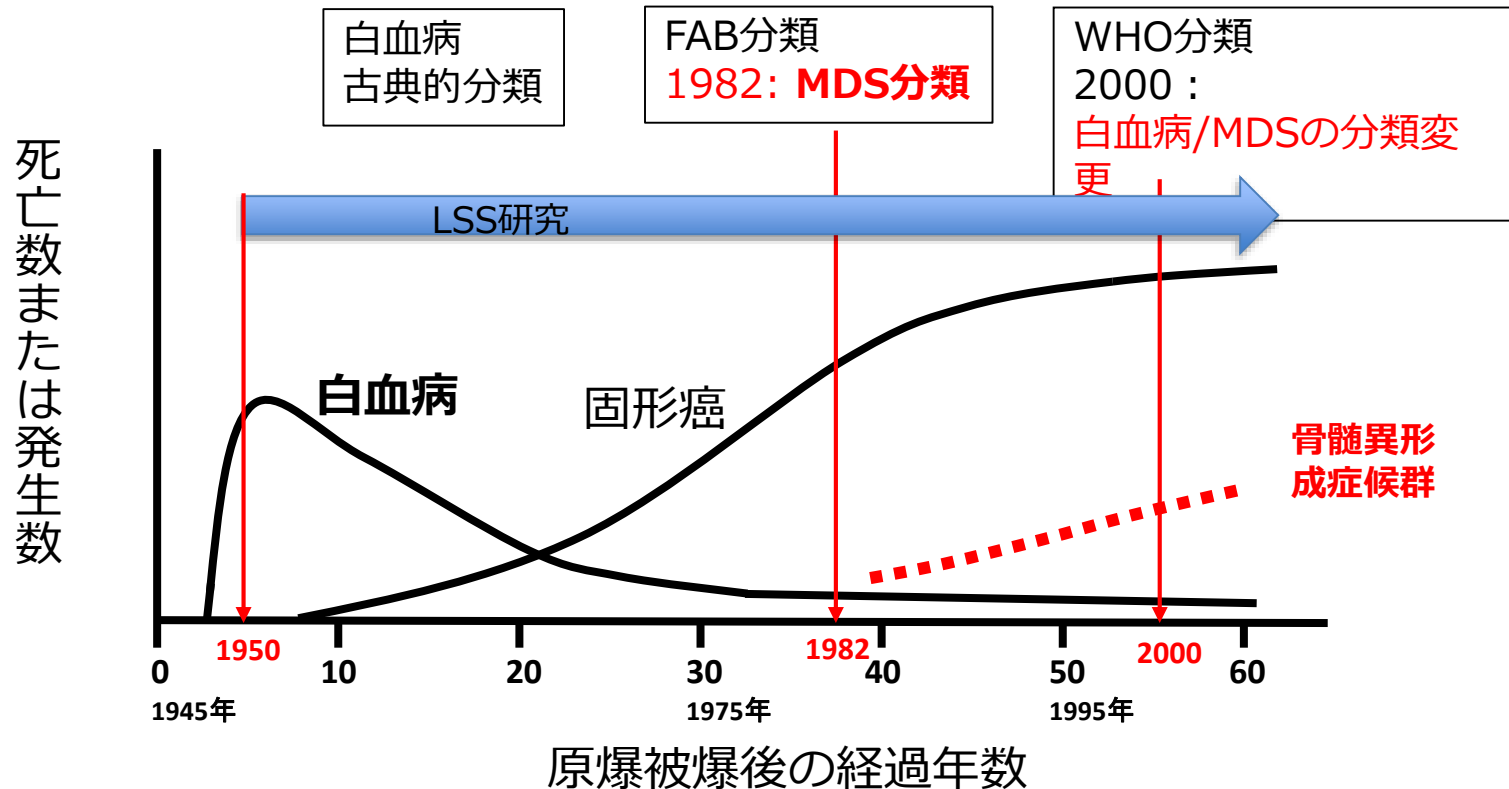


B：長崎原爆被爆者の多重がん罹患率の年代別推移
Time trend of incidence rate of multiple primary cancers in Nagasaki A-bomb survivors in each distance group



原爆被爆者における骨髄異形成症候群(MDS)

被爆から50年以上を経て新たな発癌を発見



Life Span Studyは「寿命調査」と呼ばれるもので、もとのABCCが1950年に開始し、その後放射線影響研究所に引き継がれて現在も進行中です。被爆者(広島及び長崎)約10万人とコントロール約2万人のコホートを設定して、生存と悪性腫瘍発症を主たる調査項目として70年以上追跡されています。コホートの中で詳細な線量推定がなされており、放射線被ばくと特に悪性腫瘍との関連については最も規模が大きく、疫学としての科学性も高いと評価されている。

(清水らの報告を一部改変)

最後に残った主な課題は精神的影響と次世代への影響

心理的・精神的影響調査の歩み

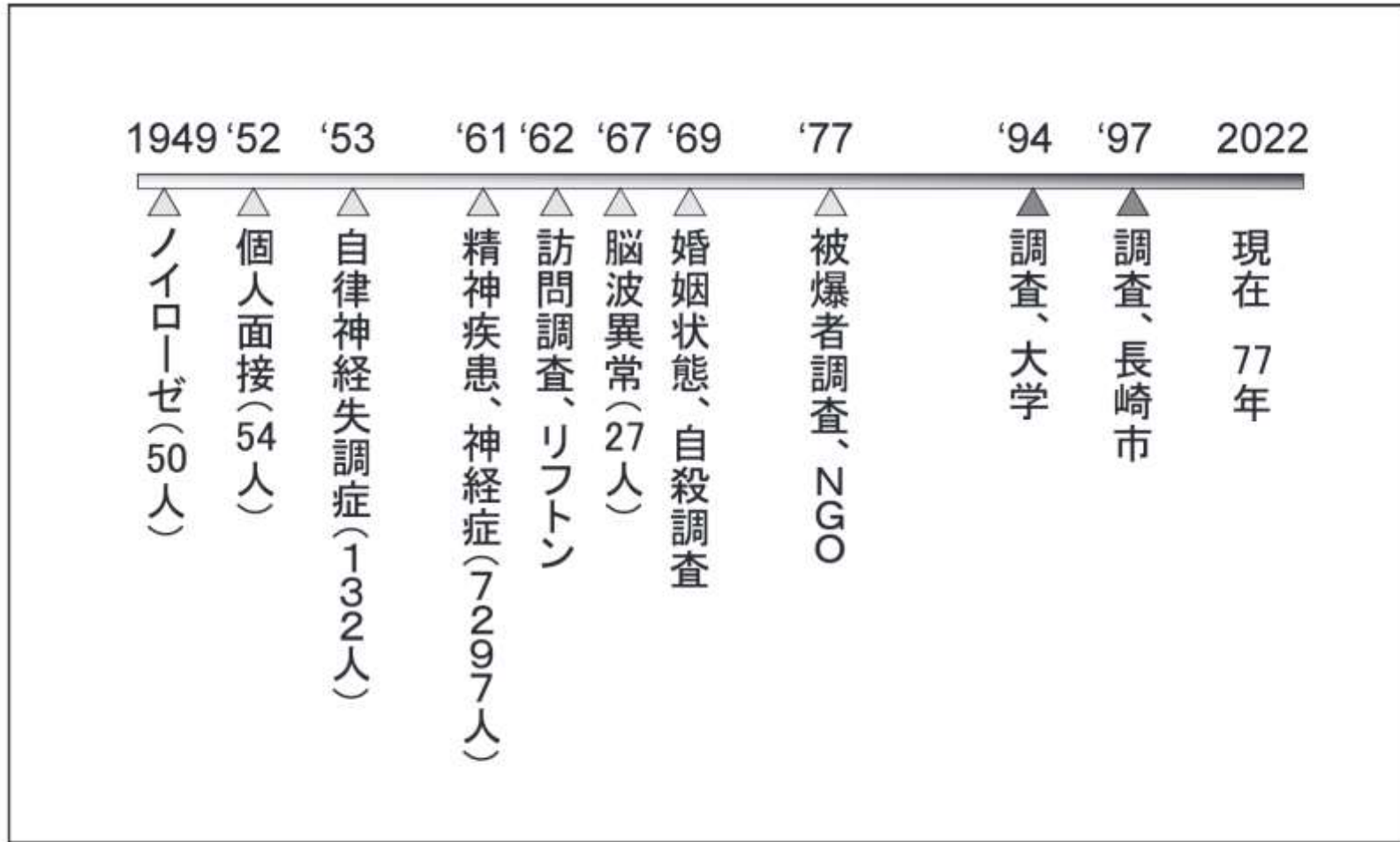


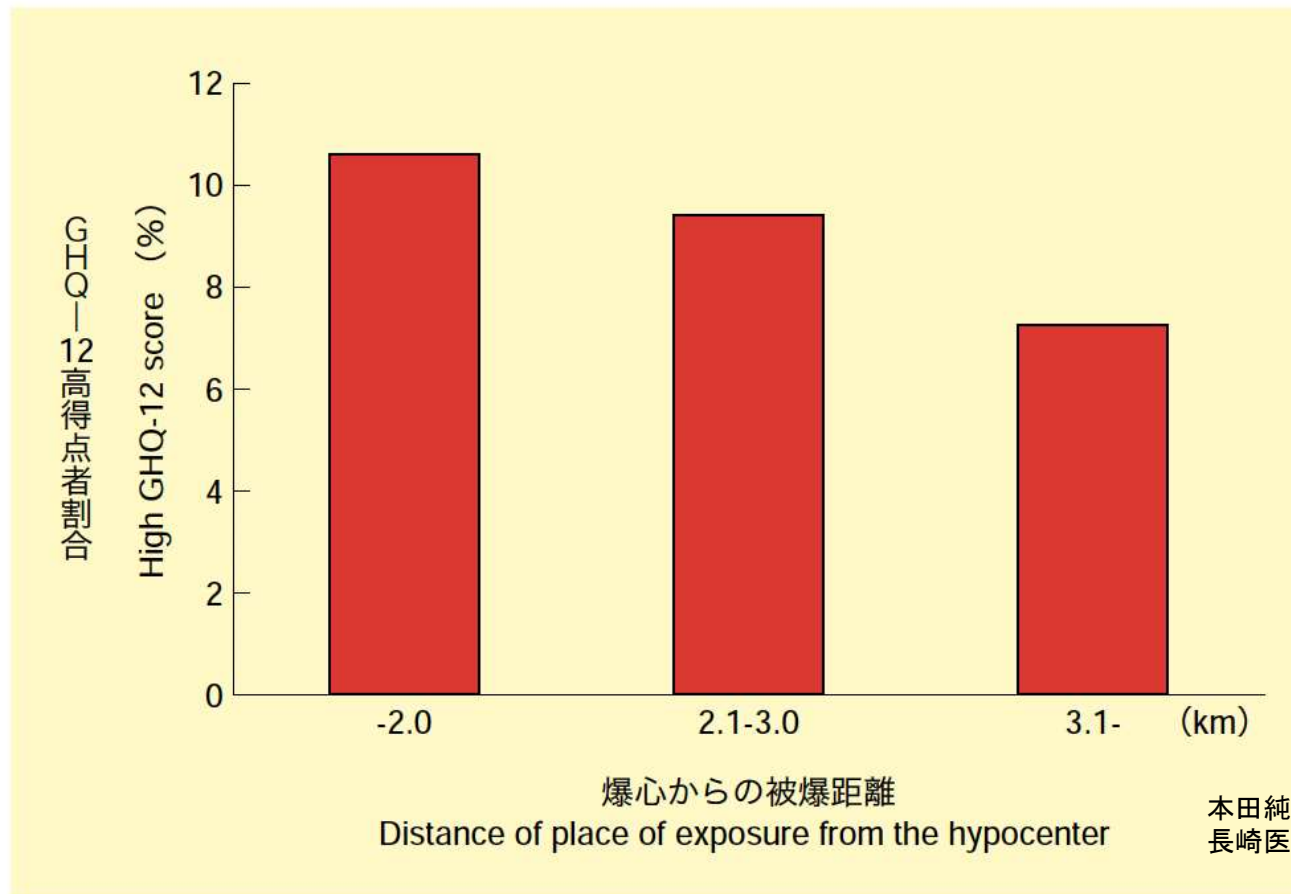
図1. 原爆投下後から現在までの心理的・精神的影響調査の歩み

精神的影響

Mental effects

被爆距離別の GHQ-12 項目高得点者割合

Frequency of subjects with a high GHQ-12 score by the distance of place of exposure from the hypocenter

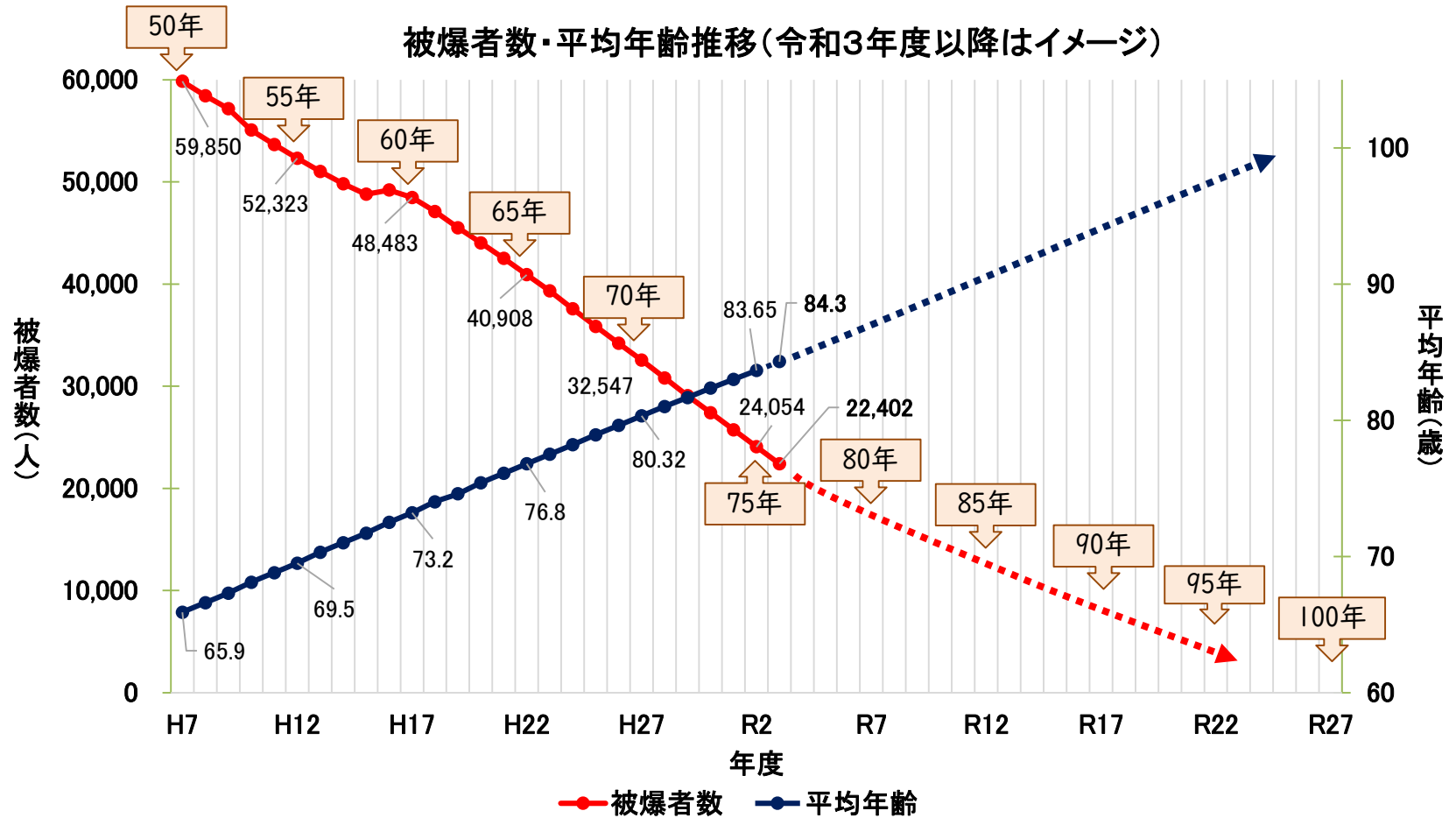


本田純久ら.
長崎医学会雑誌 71, 1996.

GHQ-12:

質問紙法による検査で、主として神経症者の症状把握、評価および発見に有効なスクリーニング・テスト。非精神病的の軽度な精神障害のスクリーニングにも利用されている(高得点ほど障害が強い)

被爆者数の推移(長崎市)



被爆者救済の実際

原爆諸手当等① ※併給不可

手当の種類	支給要件	支給月額	受給者数
医療特別手当	国から原爆症(原子爆弾の放射線が原因で病気などの状態にあること)の認定を受けた人で、現在もその病気などの状態が続いている人	141,900円	1,115人
特別手当	国から原爆症の認定を受けた人で、現在は認定された病気などの状態にない人	52,400円	428人
原子爆弾小頭症手当	原子爆弾の放射線の影響による小頭症の人	48,840円	0人
健康管理手当	次のいずれかの機能障害を伴う病気に罹っている人 造血、肝臓、細胞増殖、内分泌腺、脳血管、循環器、腎臓、水晶体混濁による視機能、呼吸器、運動器、潰瘍による消化器	34,900円	20,599人
保健手当	爆心地から2km以内に直接被爆した人及び被爆当時その人の胎児であった人 ① 省令で定める範囲の身体障害がある人 ② 配偶者、子、孫、同居人がいない70歳以上の人 ③ ①、②に該当しない人	①②34,900円 ③17,500円	48人

※ 支給月額は令和4年度の額、受給者数は令和3年度末時点

原爆諸手当等② ※①手当との併給可

手当の種類	支給要件	支給月額			受給者数
費用介護手当	精神上または身体上の障害(重度または中度)があり、かつ、介護が必要な状態で、費用を支出して訪問介護のサービスを受けたとき	重度	上限額	110,560 円	152人
			下限額	22,280 円	
		中度	上限額	75,360 円	
家族介護手当	精神上または身体上の重度障害があり、かつ、介護が必要な状態で、費用を支出せず家族等から介護を受けたとき	重度	定額	22,280 円	388人

※ 支給月額は令和4年度の額、受給者数は令和3年度末時点

葬祭料

手当の種類	支給対象	支給金額	件数
葬祭料	亡くなられた被爆者の葬祭を主に行った人(喪主など)	212,000円	1,599件

※ 支給月額は令和4年度の額、件数は令和3年度実績

介護保険サービス利用の助成

- 一部の介護保険サービスの自己負担を助成
- 保険対象外サービスは自己負担
- 訪問系介護は所得税非課税世帯であることが条件
- 表中「※」は介護予防も対象

助成対象	対象外
訪問介護※、定期巡回・随時対応型訪問介護看護 訪問看護※、訪問リハビリテーション※、居宅療養管理指導※、通所介護※、地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護※、通所リハビリテーション※、短期入所生活介護※、短期入所療養介護※、認知症対応型共同生活介護※、小規模多機能型居宅介護※、複合型サービス(看護小規模多機能型居宅介護)、介護老人福祉施設入所・地域密着型介護老人福祉施設、介護老人保健施設入所、介護療養型医療施設入所、介護医療院入所、養護老人ホーム入所	訪問入浴介護 介護予防訪問入浴介護 夜間対応型訪問介護 生活援助サービス ミニデイサービス 特定施設入居者生活介護 介護予防特定施設入居者生活介護 福祉用具貸与・介護予防福祉用具 福祉用具購入、住宅改修費

核兵器廃絶運動の歴史

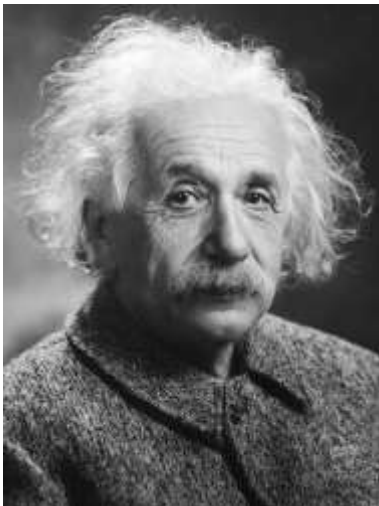
- 1945年8月広島、長崎での核兵器使用
- 1946年国連決議第一号 国連原子力委員会設置と全ての大量破壊兵器廃絶を減らす
- 1954年第5福竜丸の衝撃を受けた杉並の主婦たちの署名運動全国の核廃絶運動の盛り上がり
- 1955年ラッセル・アインシュタイン宣言からパグウォッシュ会議開催
- 1962年キューバ危機
- 1968年核拡散防止条約（NPT）成立
- 2017年核兵器禁止条約国連で採択、同年ICAN（核兵器廃絶国際キャンペーン）がノーベル平和賞受賞
- 2021年核兵器禁止条約（TPNW）が採択され、各国の批准が進み発効（締約国会議にはドイツ、オランダなど核の傘国は参加し、反対意見を述べたが日本は不参加）
- 2022年ロシアによるウクライナ侵攻に関連してプーチン大統領による核兵器使用をほのめかす発言

ラッセル・アインシュタイン宣言 (1955/7/9)

決議

私たちは、この会議を招請し、それを通じて世界の科学者たちおよび一般大衆に、つぎの決議に署名するようすすめる。

「およそ将来の世界戦争においてはかならず核兵器が使用されるであろうし、そしてそのような兵器が人類の存続をおびやかしているという事実からみて、私たちは世界の諸政府に、彼らの目的が世界戦争によっては促進されないことを自覚し、このことを公然とみとめるよう勧告する。したがってまた、私たちは彼らに、彼らのあいだのあらゆる紛争問題の解決のための平和的な手段をみいだすよう勧告する。」



第61回パグウォッシュ会議世界大会（長崎）

「被爆70年：核なき世界、戦争の廃絶、人間性の回復をめざして」

70年前にキノコ雲の下で何が起こったのかを直に被爆者から聞いて核廃絶のための議論をする



2015年11月1日～5日パグウォッシュ会議世界大会



The 61st Pugwash Conference on Science & World Affairs
Nagasaki's Voice: Remember Your Humanity
1-5 November 2015, Nagasaki, Japan

パグウォッシュ会議



ノーベル平和賞

1995年、国際政治における当面の核兵器の削減と、長期的な核廃絶のための努力に対しての受賞。



ICAN(核兵器廃絶国際キャンペーン) ノーベル平和賞受賞記念特別市民セミナー

@原爆資料館ホール 2018年(平成30)1月13日

- 「核兵器禁止条約をどう活かすか?～ナガサキからのメッセージ」



若者との対話集会「ノーベル平和賞団体『ICAN』 フィン事務局長と語る：核兵器廃絶と若者の役割」



会場に集まった約50名の高校生・大学生らと意見交換を行った。
フィン事務局長は、SNSを使えば世界中の人とつながると共に、
情報を発信できる、核廃絶を目指していくためには若者の力が必要



1月14日
医学部会場

長崎大学核兵器廃絶 研究センター (RECNA)

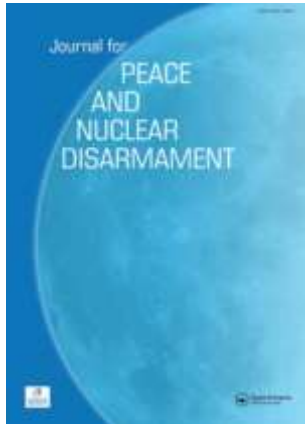
●2012年4月1日発足

●活動趣旨

1. 核兵器廃絶に役立つ調査・研究、情報発信を行う
2. 上記を通じて、学生の主体的な知識、思考、人間の形成に貢献する
3. 地域の市民に貢献するシンクタンクの役割を担う

RECNAの外観

RECNA活動の3本柱



1 調査研究・政策提言

- 北東アジア非核化の実現への貢献
- 「脱核抑止」に向けた専門的分析



2 教育・人材育成

- 軍縮・不拡散教育の推進
- 「ナガサキ・ユース代表団」の活動支

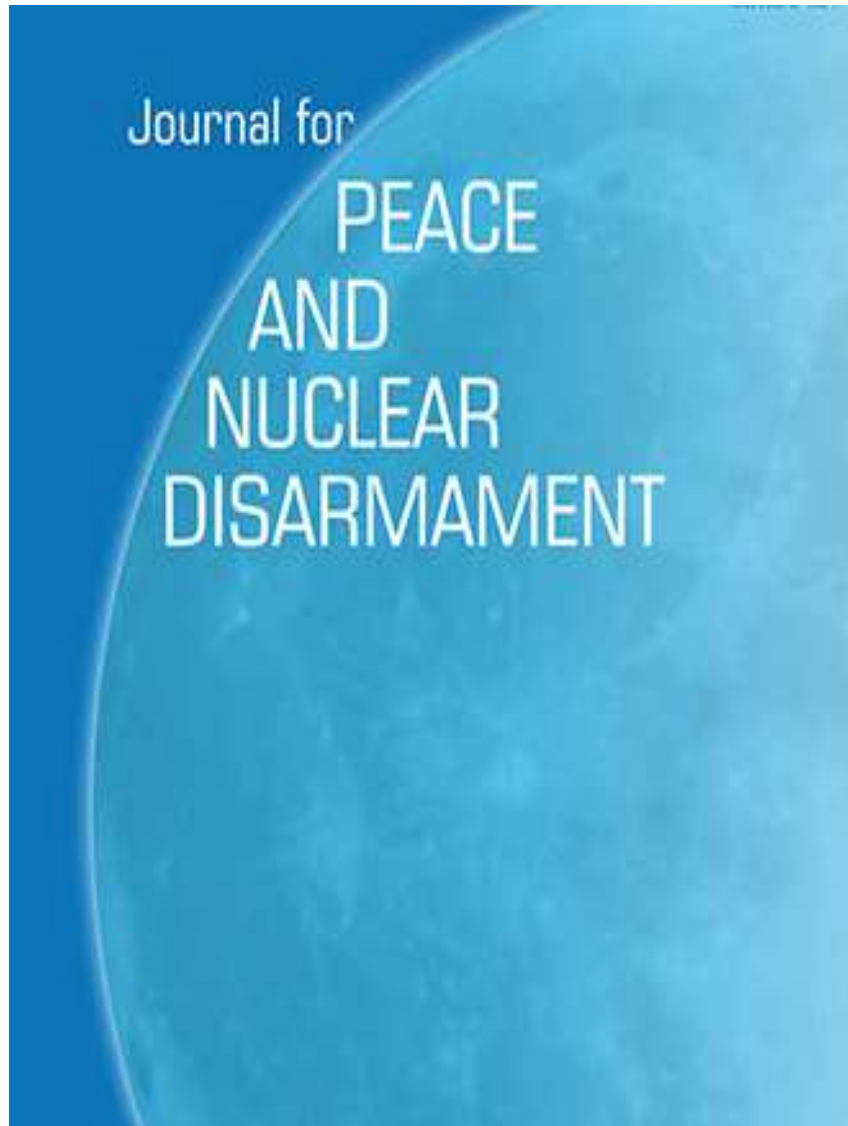
援

3 市民社会への情報発信

- 「市民データベース」の構築
- 被爆地のためのシンクタンク



長崎大学編集、Taylor & Francis出版 国際学術雑誌『平和と核軍縮』

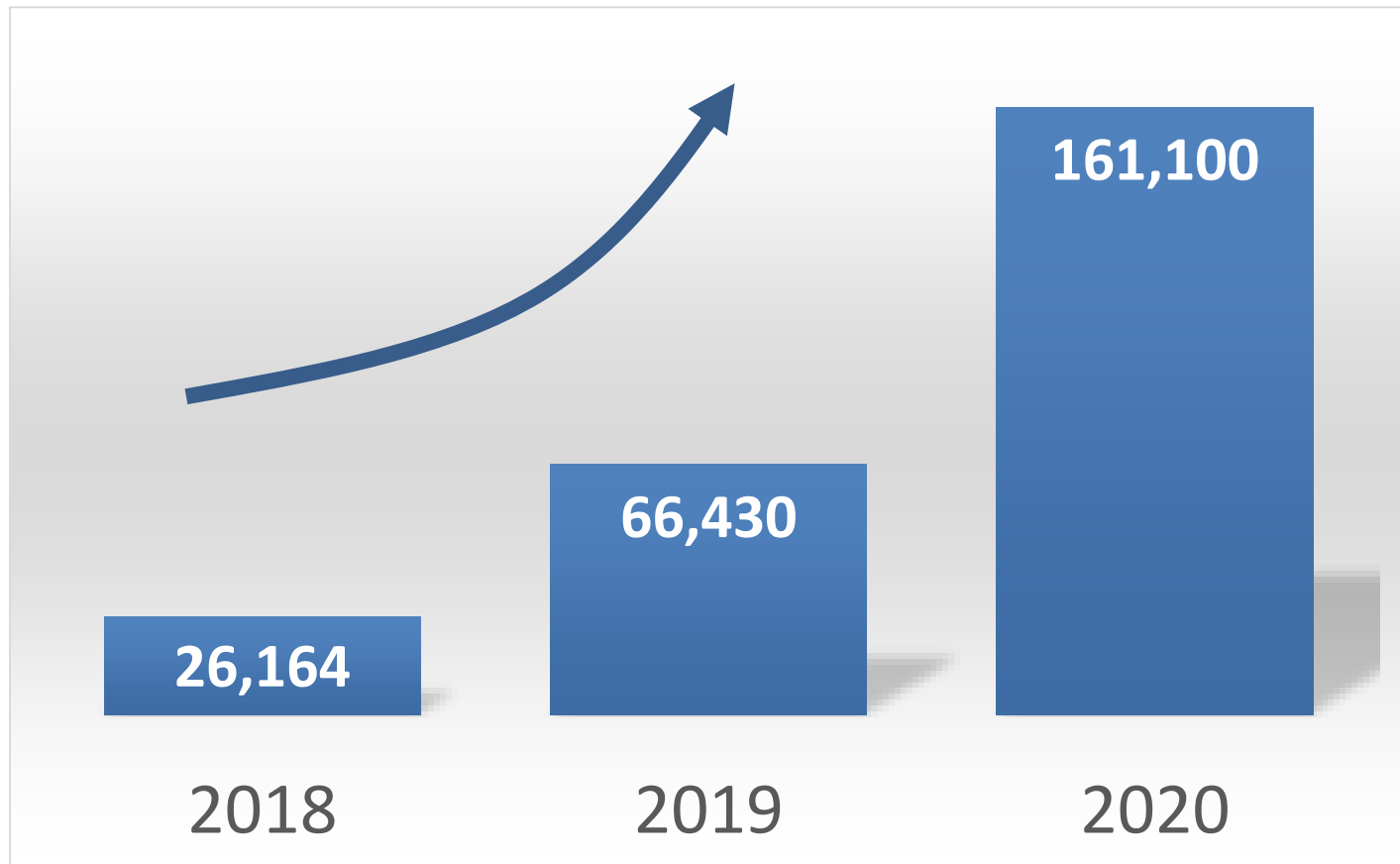


- 主な任務は、理論・実践の両面に関する研究を基盤としながら、核軍縮と平和の促進に寄与することにある
- 核軍縮・核不拡散・軍備管理に関する論文の掲載
- 「核兵器なき世界」の促進・維持に向けた核のグローバル・ガバナンスの新たな枠組みの提案
- 核抑止依存に伴うリスクの検討
- 核軍縮プロセスの前進において市民社会が担うべき役割の分析。

『平和と核軍縮』誌

論文ダウンロード数

2019年から
2020年にかけて、
2.4倍増加



教育・人材育成

「ナガサキ・ユース代表団」の活動支援



ナガサキ・ユース代表団は、長崎県、長崎市、長崎大学の3者が構成する「核兵器廃絶長崎連絡協議会」が主催する人材育成プログラムです。次世代を担う長崎の若者が、核軍縮や平和の問題を実践的に学び、この分野で活躍する日本内外の人々と出会うことで、自ら考え、行動する力を身に付けることを目指しています。RECNAはこの活動を全面的に支援しています。

ナガサキ ユース代表団の活動



私たちの280時間を届けます!

ナガサキ・ユース代表団 第9期生 活動報告会

2021 8/22(日) 14:00~15:30
長崎大学文芸キャンパス スカイホール
 (アロハホール裏側 学生広場 4階)

入場無料

スカイホール

「ナガサキ・ユース代表団」主催 長崎県国際交流推進協議会(POU-NC)の第9期生9名は、地元の問題をより多くの人に自分身として捉えてほしいと活動してきました。

新型コロナウイルスの影響でNPT再検討会議への派遣が中止となった中、NGO関係者や若者らの意見交換を通じて、9人は何を学び、思い、考えたのでしょうか。

ぜひその「生」の声を聴きませんか?

本報告会では、会場以外に、会場にいないだけの方々のために、ビデオ会議ツール「Zoom」を使ってライブ配信を行います。

Zoomでの視聴には、事前登録が必要となります。下記QRコードより登録をお願いします。(会場へいっていただく場合には事前登録は必要ありません。Zoom申込締め切り日 8月20日18時まで)

オンライン配信を視聴するためのURLは後日お送りしますので、届いていない場合はお問い合わせ先へご連絡ください。

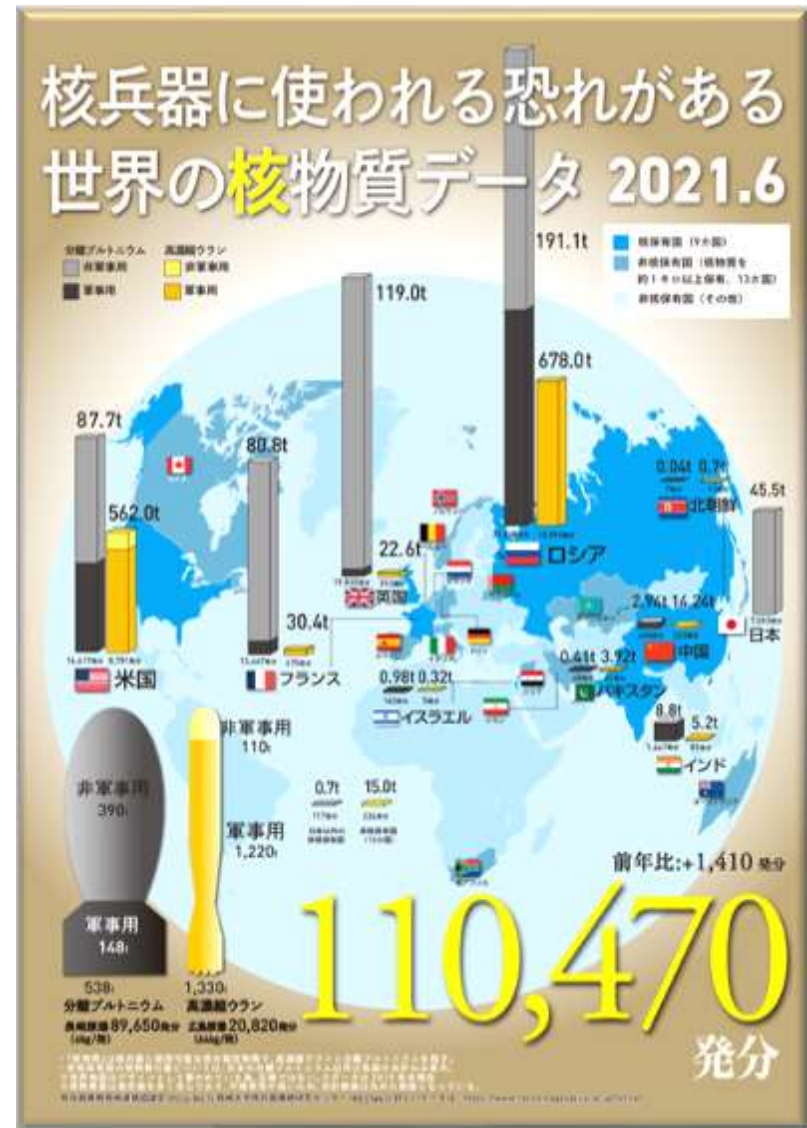
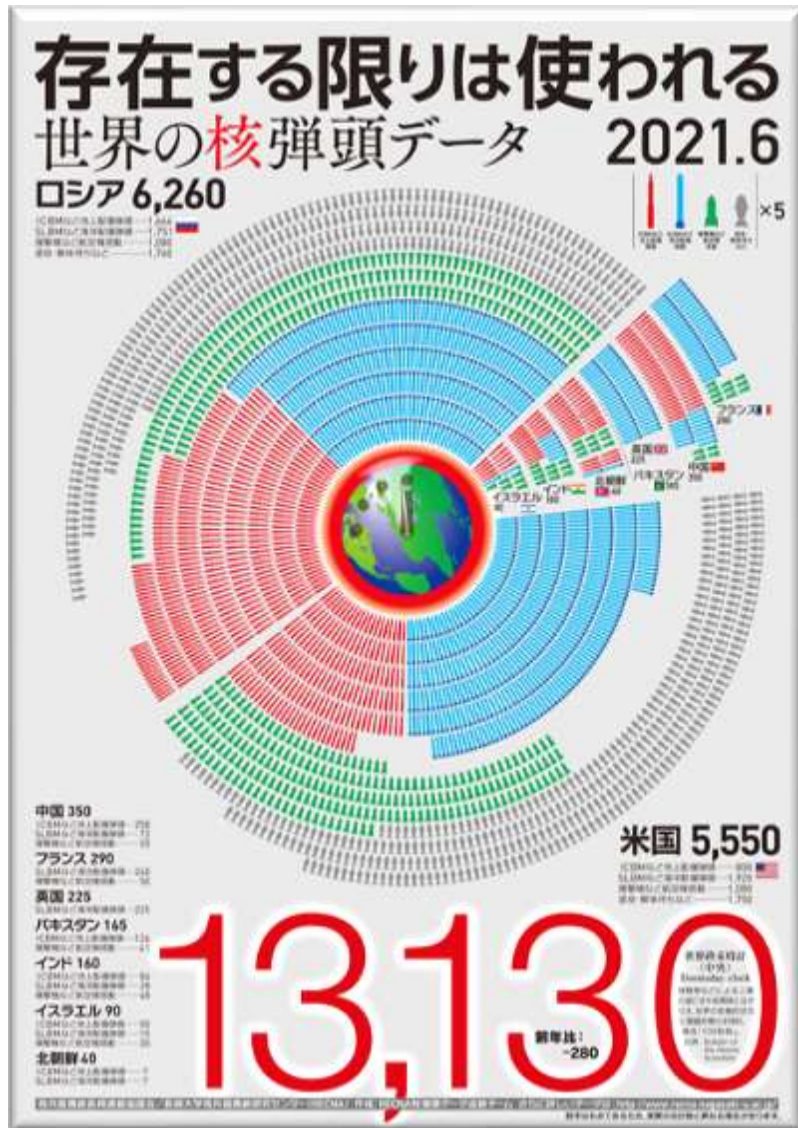
URL: <https://nagasaki-youth.jp/2021/08/22/zoom/>
 HELLO! JAPAN, WE MAKE IT HAPPEN

RECNA
 RESEARCH CENTER FOR ENVIRONMENTAL COMMUNICATIONS
 Nagasaki University

協力 長崎県国際交流推進協議会 (POU-NC)
 〒850-8521 長崎県長崎市 1-14 TEL: 095-819-2352
 Facebook: www.facebook.com/nagasakiyouth/

QRコード

市民社会への情報発信



2021年版核弾頭データポスター(左)と核物質データポスター(右)

市民社会への情報発信

被爆地のためのシンクタンク

RECNAは、核兵器廃絶長崎連絡協議会と連携して、定期的な市民公開講座を開催しているほか、主に外国から専門家を招いた特別市民セミナーも随時開くなど、さまざまな市民向けの事業を展開しています。



第1回
第三の核時代
持続可能な平和への方向転換
2021年
6/12 (土) 午ール
長崎県立図書館

第2回
議論風発 市民・平和
運動の150年
2021年
9/18 (土) 午ール
長崎県立図書館

第3回
パンデミックと核軍縮
人類の未来を考える
2021年
11/13 (土) 大村市
スライム図書館

**核兵器廃絶
市民講座
2021年度**

第4回
これからの軍縮教育
日韓の視点から
2021年
12/18 (土) 午ール
長崎県立図書館

第5回
核兵器禁止条約の今後
2022年
2/5 (土) 午ール
長崎県立図書館

受講料 無料 **事前申込 不要**

オンライン配信も実施します。(事前申込必要)
核兵器のない世界をめざして 全5回で開演いたします。被爆76年、一緒に核兵器廃絶に向けて考えましょう。

時間 13:30~15:00
(15:00~15:00 RECNAと語る5分)

会場 長崎県立図書館ホール
〒850-0001 長崎県長崎市大町1-1-1
長崎県立図書館ホール

主催 RECNA
長崎県立図書館
長崎県立図書館ホール

お問い合わせ RECNA
〒850-0001 長崎県長崎市大町1-1-1
長崎県立図書館ホール
TEL: 095-822-1111 FAX: 095-822-1112
E-MAIL: recna@recna.or.jp
www.recna.or.jp

アクセス
長崎県立図書館ホールへのアクセス
長崎県立図書館ホール
〒850-0001 長崎県長崎市大町1-1-1
長崎県立図書館ホール
TEL: 095-822-1111 FAX: 095-822-1112
E-MAIL: recna@recna.or.jp
www.recna.or.jp

長崎県立図書館ホール(大町1-1-1)のアクセス
長崎県立図書館ホール
〒850-0001 長崎県長崎市大町1-1-1
長崎県立図書館ホール
TEL: 095-822-1111 FAX: 095-822-1112
E-MAIL: recna@recna.or.jp
www.recna.or.jp

(公財) 長崎平和推進協会の活動



継承部会



交際交流部会



写真資料調査部会



音楽部会

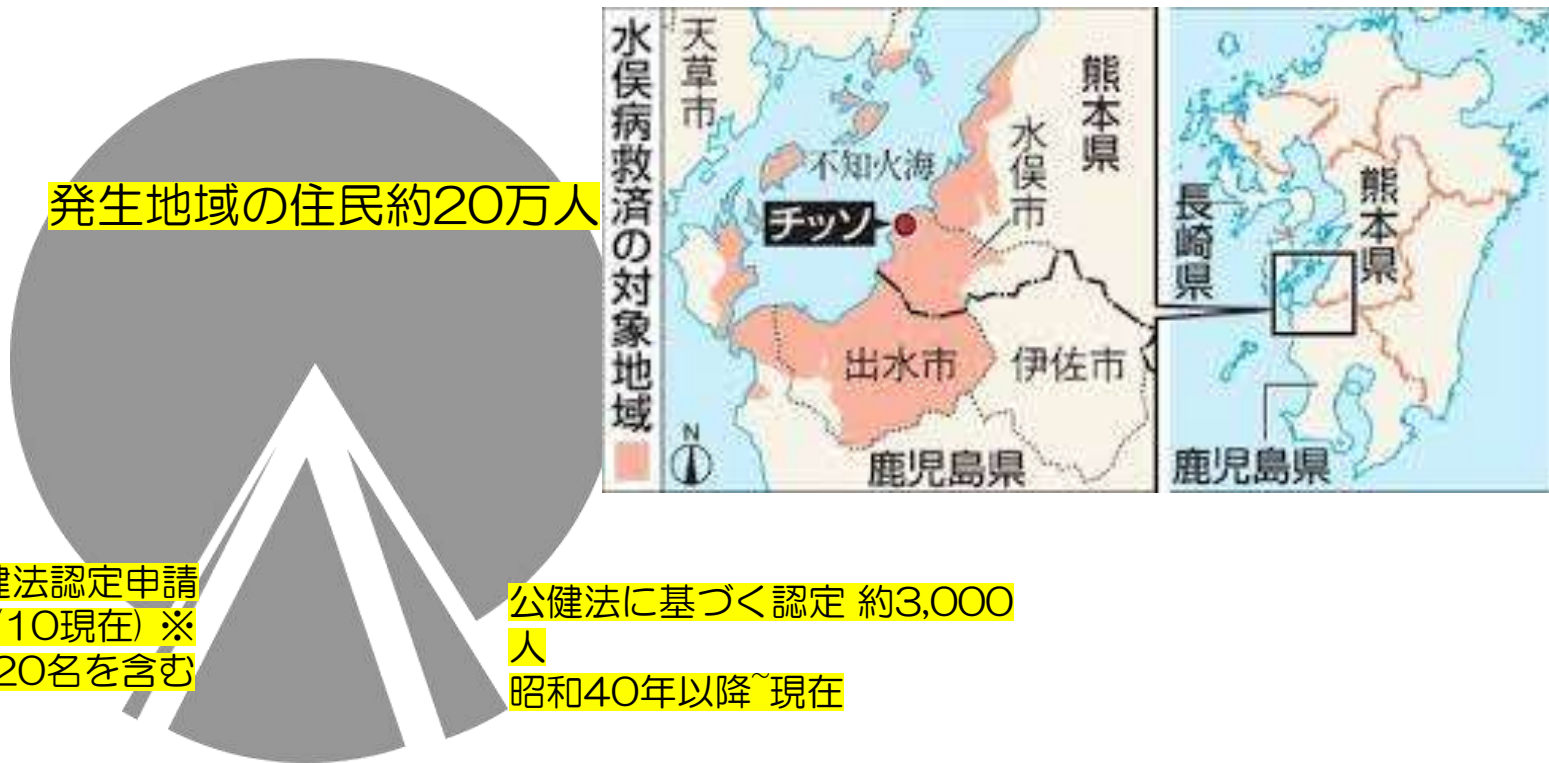




NPT再検討会議を取り囲むNGO活動 @ニューヨーク2015

「水俣病」問題の広がり

「水俣病」発生地域の住民約20万人



平成7年の「政治解決」による救済 約12,000人(うち保健手帳約1,000人) ※10訴訟を取り下げた約2,000人を含む

被爆者の調査・支援

- 国・市が主体で被爆者の調査・支援
- ABCC、大学、放影研などの研究機関による詳細
- かつ長年にわたる疫学調査、研究調査

今後の課題

- 被爆者の減少による継承の問題
- 精神的な健康被害
- 二世の健康被害の有無
- 黒い雨問題（被爆認定地域拡大問題）

原田正純医師の言葉

水俣病研究の第一人者で患者の救済に半世紀にわたって取り組んだ医師



水俣病の
小なる原因は有機水銀であり、
中なる原因はチッソが廃液を
たれ流したことであり
大なる原因は

「人を人としてあつかわなかったことにある」

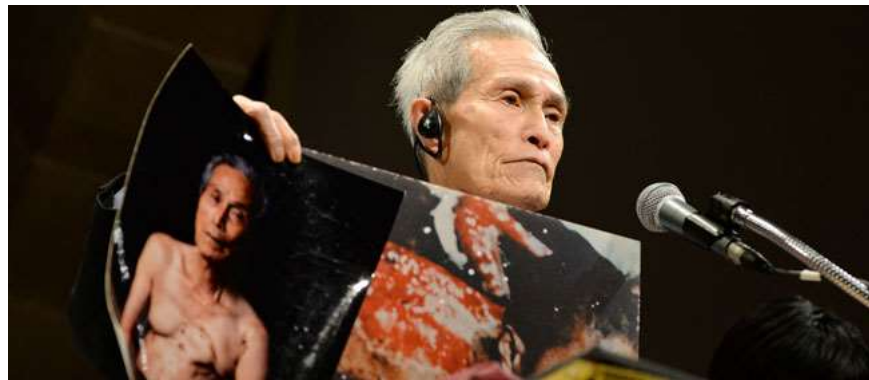
戦争と被爆と公害

通底するものは
人の尊厳を無視した結果です

被爆者の持つ圧倒的な存在感を国際会議に出て初めて認識しています



まだ核兵器が世界中にたくさんあることが いちばん悲しい
自分の体が続く限り「原爆反対」を言い続けたい



いま、核兵器廃絶運動を主導しているのは20代、30代の若者たち



ICANスタッフ



No Nukes Tokyo共同代表



